

平成23年度第1回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催

11月11日（金）、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議主催により、平成23年度第1回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を農林水産業者、商工業者、各支援団体などから約60名の参加により開催しました。



（戸井田いわき農林事務所長の開会あいさつ）

この交流会は、東日本大震災により大きく停滞したいわき地方の地域産業6次化を再起動することによりいわき地域農林水産業の復旧・復興を図ることを目的としています。

始めに、事務局よりネットワーク会員を対象として9月に実施した震災の影響についてのアンケート結果概要について説明し、次にアンケートで要望が多かった風評被害対策の状況として、本県の取組みである「ふくしま 新発売。」やいわき市の「見せます！いわき」などのほか、今後の6次化推進に向けた各種制度等について説明を行いました。

参加者は、地域産業6次化の推進及び東日本大震災からの復旧・復興のため、県や市の取組内容について理解を深めていました。

また、今回の「東日本大震災」を乗り越え6次化商品を開発し、11月より「郷の燦（さとのきらめき）」という商品名の「トマトソース」を発売した遠野産業振興事業協同組合の平

子理事長より、商品開発の経緯や販売方針についての発表のほか開発商品の試食が行われました。

参加者は、試食のトマトソースのおいしさに舌鼓を打ちながら、説明に対して熱心に耳を傾けていました。参加者にとっては、6次化商品を開発する上で大きな参考となったようです。交流会終了後は、会場内に展示された6次化商品を前に会員同士が情報交換を行い、相互の交流が図られました。

いわき農林事務所では、今後年度内に第2回交流会を開催し、いわき地域産業6次化を推進していくこととしています。



平成23年度第2回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催

3月12日（月）、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議主催による、平成23年度第2回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」が農林水産業者、商工業者、各支援団体等約60名の参加により開催されました。

東日本大震災から1年が経過しましたが、風評被害がいまなお続き、大きく停滞した状況にあるいわき地域の農林水産業の復興を目指して、農林水産業と他産業の連携・融合により付加価値を創出する地域産業6次化の推進が目的です。

始めに、平成24年度の事業計画について事務局より説明を行いました。

次に、茨城大学農学部教授 塩 光輝氏より「震災・原発事故から1年を経過して～農業を取り巻く課題とこれからの地域産業6次化について～」と題して、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故による被害状況のほか、TPP（環太平洋経済連携協定）や6次産業化のポイントなどを講演していただきました。



（戸井田いわき農林事務所長の開会あいさつ）

講演後は、いわき地域産業6次化ネットワーク会員による6次化商品PRプレゼンテーションと参加者交流会が開催されました。

交流会では、プレゼンターが展示した自社の6次化商品を前に参加者間相互の交流及び情報交換が図られました。

○ネットワーク交流会プレゼンテーション一覧

事業者名	プレゼンテーションの内容
(農)いわき菌床椎茸組合・アグリ物産(株)	自社で開発に取り組んでいる、しいたけのリキュールやしいたけのうどん、しいたけのたたきなどの紹介。
(株)磐城高箸	自社で生産している高級割箸の紹介。
(株)アクセル	ロシアから輸入した高級はちみつといわきの農作物を活用する事業計画の説明。
(株)いわき遠野らぱん	昨年末に販売を開始したいわき市遠野町生まれ山梨県育ちのワイン「レ・ジュール・デ・ラパン」について紹介。
いわきいきいき食彩館委員会	運営しているスカイストアで実施している風評被害対策や新たな地域産業6次化へ向けた取り組みについて説明。
韓国村からし屋	新商品「塩麹キムチ」等について紹介。



（ネットワーク交流会でのプレゼンテーションの様子）